
東北大学陸上競技部

OB・OG通信

2022年No.1 (2022.5)

- ・ 第 293 回日体大記録会
…松浦(M2)が男子 5000m において 14:05:86 の部記録かつ東北学生記録の更新
 - ・ 宮城県春季競技大会
…平谷(1)が女子ハンマー投において 39m25 の部記録の更新
…斉藤宥哉(3)が男子 300m において 34:35 の部記録の更新
-

- ・ 今年度ならびに東北インカレへの抱負 2～6 ページ
- ・ 第 18 回 27 大学対抗駅伝競走大会 7～8 ページ
- ・ 各種大会 9 ページ
- ・ 宮城県春季大会での活躍 9 ページ
- ・ 自己ベスト更新者 10 ページ
- ・ 令和 4 年度三秀会総会 11 ページ
- ・ 令和 3 年度三秀会卒業祝賀会 11 ページ
- ・ 今後の予定 12 ページ
- ・ 編集後記 12 ページ

新緑の候、会員の皆様にはますますご発展のほどお喜び申し上げます。今号では、今年度ならびに東北インカレの抱負を中心に、コロナ禍で開催された各大会における選手の活動を報告いたします。

本年も変わらぬご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

◎主将・女子主将・各 PC より今年度ならびに東北インカレの抱負

◆主将 佐藤 千仁

昨年8月より主将を務めている、佐藤千仁です。かねてより主将として掲げている「チーム像」と「チーム目標」に関して、記します。

目指すチーム像は

「陸上競技がより好きになれる場所」

です。新型コロナウイルスの蔓延以後、競技力向上のための鍛錬継続が困難になった他、目標大会への出場可否も保証されない時間が続きました。この中、部に所属し活動する根底である、陸上競技への熱意を絶やさないう、PCとともに環境を死守してきました。陸上をする上での環境は、練習のみならず、授業・研究・私生活全てを指します。このバランスをとり、大学生活を充実させることが成長への近道と考えています。陸上もその他も、互いに言い訳にせず、両立させ、成長していく部員が増えることを期待しています。

今シーズン7月までのチーム目標は、「PB 更新者 80 人」「東北インカレ男女総合 3 位」「主管開催での七大戦男女総合優勝」です。以上は、個人目標からパート目標を結びつけて、現実的に達成可能と判断したものです。ただし、新入生の力によっては、さらに良い結果が出ると期待しています。PB 更新は、決して個人で完結する目標ではありません。チームとしての前進の象徴であり、パート内外に前向きな力をもたらす重要なイベントです。PB 更新者が続出するような流れを生み、その勢いにのる部員が1人でも多く出るよう、1戦1戦を大事にしていければと思います。

東北インカレは「東北の大学で競い、全国への切符をつかむ大会」、七大戦は「東北大学の看板を背負い、自らと似た境遇をもつ全国の選手と競う大会」特に今年は「ホームとしてのプライドにかけて負られない大会」と位置付けられ、例年に漏れず意識してきた主要大会です。選手は選ばれた責任をもち、個々人のベストを尽くすことと思います。

東北インカレについて記します。

男子は総合で140点を獲得し、2位を目標としています。これは現時点において予想される得点としていますが、今シーズンにおける各大学の戦力を踏まえ、本番までにPCと修正します。ただし、多少の変動はあれども、今年なら総合2位は十分達成可能と考えています。当然ながら、現時点での勢いや層の厚さ、得点予想は、種目・パート間で異なります。しかしながら、各個人・パートが自らの状況を把握することで、優勢と自覚している種目やパートはチームを引っ張る気持ちを持ち、また劣勢と目される種目・パートも少しでも上位に進もうとします。これにより、チームの力が100%発揮されると信じています。また、今年は例年に比べ、多くのパートで部内の正選手争いが激化しています。チーム内で力を高め合い、他校のライバルを圧倒します。

最後になりますが、OB・OGの先輩方には日頃よりご支援を賜り、感謝申し上げます。今後とも何卒宜しくお願い致します。

◆女子主将 大宮日菜子

昨年8月から女子主将を務めている大宮日菜子です。ご寄稿の機会をいただいたので、女子主将として掲げている「チーム像」「チーム目標」を述べさせていただきます。

目指すチーム像は、「全員で陸上競技を楽しみ、目標を達成できるチーム」です。コロナ禍で満足いく練習環境を恒常的に整えることが困難になり、個人の努力に任せる部分も大きくなってしまいましたが、前主将をはじめとする前役職者や顧問の先生方のご尽力により今シーズンは評定河原が閉鎖されることなく冬季に練習を積み重ねることができました。部全体で集まれるようになったことにより、女子ミーティングなどで互いの状況を共有しパートを超えるコミュニケーションをとることができるようになりました。今シーズンは、よりチームとして各大会に臨んでいきます。

今シーズン前半の女子パートの目標は、「東北インカレ総合5位」「七大戦総合優勝」です。これは部員全員が実力を発揮できれば十分に達成可能であると考えています。東北インカレに関しても、今回は女子パート全体の目標を予め設定していました。ここには東北インカレを意識することでその先のラウンドでもある全日本インカレを目標とする選手が増えてほしいという意図もあります。様々な種目を専門とする選手が入部してくれ、女子パートは現在戦力がとても充実しているといえます。全員が実力を発揮できる環境を整え、一丸となって東北インカレに挑めるように尽力していきたいと思えます。

最後になりましたが、日頃から東北大学学友会陸上競技部に多大なるご支援をしてくださるOB・OGの方々には大変感謝しております。今年度も部員一同活躍ができるように努力を重ねますので、これからも変わらぬご支援の程よろしく願いいたします。



[女子主将 大宮、主将 佐藤(千)]

※感染対策に十分に配慮し、撮影時のみマスクを外しております。

◆短距離 PC 齊藤宥哉

齊藤宥哉と申します。2021年8月より短距離PCを務めさせていただいております。

今年の短距離パート目標は

- ①シーズンを通して全員がPB更新
- ②東北インカレにおいて各種目2人以上入賞かつ少なくとも1種目優勝
- ③七大戦において正選手全員が得点し「パート優勝」

これら3つに大別されます。とりわけ仙台開催の七大戦は特別なものであり、主将・PCが力を入れて議論してきたトピックでもあります。鍛錬シーズンには、七大戦について『ターゲットを個人の水準にまで落とし込んで、「現状誰に勝てる・勝てない」を明確にし、それに到達するために必要な条件を言語化する』ことの重要性を強調してきました。総合優勝達成のためにも、私たちは全力でパート優勝を狙っていかねばなりません。

「いまの短距離パートは例年に比べ実力不足」

昨年は幾度となくこの言葉を耳にしました。それでもへこたれることなく、己の練習とパートメンバーを信じて冬季練習を乗り越え、「東北大史上最強の短距離パート創成」を標榜できるくらいにまで成長しました。これは決して美辞麗句などではありません。PCのみならずほとんどすべての部員がパート目標を心に刻み、そこに向けて段階的に状態を上げていくという努力を怠らなかつたこと、そして常に頭を使って練習を継続し切磋琢磨してきたことの帰結にほかなりません。先に述べた具体的な目標は、昨シーズンの他大学選手の記録やランキングをもとに、かなり高めに見積もったものになりますが、いまの私たちには、実現可能性が十二分にあるといえます。

初志貫徹の精神を胸に、全員で目標に向かってひた走ります。

◆ハードル PC 齋藤晃汰

2022シーズンのハードルPCを務めています、3年の齋藤晃汰です。

はじめに、日頃より本部活動へのご支援いただき誠にありがとうございます。この場をお借りして、御礼申し上げます。

昨シーズンのハードルパートは中村前PCの下で、「部記録更新」「全カレ出場」「七大戦代替試合パート優勝」等の輝かしい功績を残しました。一方で、昨年の東北インカレを振り返ると、どの種目もあと一歩及ばない歯痒い結果であったことも事実です。この悔しさが、ハードルパートの成長の源となったことは言うまでもありません。今シーズンの東北インカレは、昨年の雪辱を晴らすべく、以下の2つの目標を掲げております。

1. 各種目2人以上がA決勝に進出する=パート総力の成長

2. 各種目1人以上が表彰台を奪取する=個人力の成長

要するに、「パート全体で闘い抜く」そんなチームを目指して、冬季練習に励んでまいりました。加えて、大変喜ばしいことに本パートには新入部員が続々と入部しております。他方で、長年本パートを牽引された院生の先輩方も、ラストシーズンを迎えております。「背中で意志を継承する」、本大会にはこのような目的もあるかと思われまふ。また、今夏に開催される本学主幹の七大戦に向けても、有意義な大会にできるよう精進いたします。

最後になりますが、今シーズンも本パートの活躍にご注目ください。

応援よろしくおねがいします！！

◆中距離 PC 富田綾人

中距離 PC の富田綾人です。

私はこの中距離パートを、お互いに引っ張りあい、みんなで強くなれるようなパートにしたいと考えております。昨シーズンは合同練習禁止で個人練習をせざるを得ない期間がありました。しかし今シーズンは比較的合同練習しやすいので、合同練習の良さを最大限引き出し、パート全体でモチベーションを高めあえる環境を作っていきたいと思います。

また中距離パートの目標は、①**全員 PB 更新** ②**七大戦全種目複数人入賞** ③**東北 IC 複数種目複数人入賞** です。パート部員全員に目標を持って練習を行ってもらいたいため①、主要大会である七大戦と東北 IC に関しては強い選手一人に頼らず出場者一人ひとりに入賞や優勝といった明確な目標を持ってもらうため②③を決めました。これら3つの目標はパート全員が当事者意識を持って日々の練習に取り組めば達成できるはずです。

6月には目標の一つである東北 IC があります。私たちは良い雰囲気です。冬季練習をしっかりと積むことができました。みんなが入賞を目指して練習してきたので、目標を達成することは十分可能であると思います。中距離パートとして一点でも多く得点できるように頑張りますので、応援よろしくおねがいします。

◆長距離 PC 坂本順

昨年11月より長距離 PC を務めております、3年の坂本順です。

昨年度も OBOG の方々のご支援、ご尽力のおかげで無事に終了することができました。この場をお借りして感謝申し上げます。

長距離パートの今シーズンの目標は、「**全日本大学駅伝への出場**」、そして、昨年惜しくも達成を逃した「**5時間41分20秒の部記録更新**」です。この目標を決めるにあたって、学年や出走経験の有無によって意見が分かれるということがありました。しかし、現時点で厳しい目標であるからといって必要以上に尻込みせず、部記録更新を目指すチーム作りをしていくことになりました。

加えて、七大戦をはじめとするトラックシーズンの主要大会にも力を入れて臨むという方針も決定しました。昨年は新型コロナウイルスの影響でトラックシーズンへの移行が遅れたこともあり、東北 IC や七大戦代替試合では長距離パートとしてほとんど部に貢献することができませんでした。そのような悔しい気持ちを今シーズンのトラックレースにぶつけ、部としての目標に少しでも貢献したいと考えています。

東北インカレでは、長距離パートとして計20点の獲得をパート目標に掲げます。この目標達成のためには各種目複数人入賞が必要不可欠となり、決して簡単な目標ではありませんが、パート一丸となって臨みたいと思います。

これらのトラック、駅伝の両目標を達成するには、学部生の競技レベルの底上げが必要不可欠であると感じています。絶対的エースと呼べる選手が不在の中、学部生のレベルアップこそが正選手争いになくしてはなりません。互いに切磋琢磨できる環境が作れるように、PC として出来る限りのサポートをしていきます。

精一杯頑張りますので、応援よろしくお願ひします。

◆競歩 PC 辻本隆文

競歩 PC を努めさせていただいております、辻本隆文です。

競歩パートの今年度の目標は**東北インカレや七大戦などの対校戦での得点獲得**です。昨年度は七大戦での得点は達成することができましたが、その他の開催された対校戦にはパート部員の出場なしという結果でした。そのため、今年度は七大戦だけでなく東北インカレなどにも出場し、得点を獲得するということを目標としています。競歩パートは現在、所属部員が私一人となっています。これからでも新入部員が入ってくればうれしい限りですが、現状ではこれらの目標を達成するには私が頑張らなくてはいけません。人数がない分他のパートに比べて獲得できる得点は少なくなってしまうと思いますが、少しでも良い結果を残せるよう日頃の練習から頑張っていきたいと思っています。

直近の東北インカレでは前述の通り得点獲得、つまり 8 位入賞が目標です。正直、簡単に達成できる目標ではないと思いますが、競歩は他の種目と比べても最も、最後まで何があるか分からない競技だと思っていますので、少しでもチーム目標に貢献できるように全力で頑張ります。

◆跳躍 PC 大谷航平

昨年 8 月より跳躍 PC を務めさせていただいております、大谷航平です。

まず、跳躍パートの今年の目標ですが、東北インカレと七大戦を主要大会として定めた上で「**東北インカレ出場者全員入賞**」「**七大戦全員得点並びに跳躍ブロック優勝**」を掲げております。また、これらの目標を成し遂げる上で「**全員 PB 更新**」も必須であると考えております。

昨年の跳躍パートについて振り返りますと、多くの部員が PB 更新をすることができたとはいえ、主要大会における結果は芳しいものではありませんでした。これは感染症拡大等により満足のいく練習を積みなかつたことが大きいと思います。その点、今年は多くの方のご協力によって昨年よりも整った練習環境を確保することができ、質・量ともに充実した冬季練習を積むことができました。冬季を経て確実に力をつけた部員の姿も多く見られます。また、やる気も実力も兼ね備えた新入生が沢山入部してくれたこともあり、チームとしては良い方向へ進んでいるように思います。

私の掲げた目標は容易に達成できるものではなく、これまでの記録を元に考えると厳しいというのが正直な現状です。ですが、部員一人一人の潜在能力や大会にかける想い、陸上に費やしてきた努力などを考慮すると、決して不可能な目標ではないと思っています。東北インカレまでは残りわずかとなりました。跳躍パート一丸となり、最後の最後まで切磋琢磨し合いながら、後悔のない練習を重ねていきたいと思っています。また、大会では誰一人として力の出し惜しみをすることなく、全身全霊で戦ってきます。跳躍パートの活躍を期待していただき、応援のほど、よろしく申し上げます。

また、私自身、PC として力が及ばない点が多いですが、少しでもパートのためになればと日々活動しております。七大戦まで精一杯頑張らせていただきますので、よろしく願い致します。

◆投擲 PC 畠山千果

投擲 PC を務めております、4 年畠山千果です。投擲パートの目標は、出場種目全てで入賞することです。新年度に入り、複数の新入部員が増えた投擲パートは活気に満ちています。今までよりも多くのパート部員が、より多くの種目で活躍することを期待し、PC の私自身楽しみに感じています。現状の実力や課題を知り、1 ヶ月半後の七大戦に向けて良い流れをつくれるような大会にしたいと考えています。応援よろしく申し上げます。

○第18回 27 大学対抗駅伝競走大会 (1/15) …熊谷スポーツ文化公園陸上競技場

1月15日(土)に埼玉県熊谷スポーツ文化公園陸上競技場にて27大学対抗駅伝競走大会が開催されました。本大学からはオープンチームも含め全5チームが出走いたしました。以下5チームの結果になります。

順位	チーム名	1区 (9.85 km)	2区 (3.12km)	3区 (7.57 km)	4区 (5.0 km)	5区 (5.0 km)	6区 (8.0 km)	総合成績
3	東北大学 [男子対抗の部]	松浦崇之(M2) 28:31[1] 28:31[1]	牧野雅紘(4) 38:14[1] 9:43[5]	脇田陽平(M2) 1:02:27[1] 24:13[10]	工藤大介(3) 1:17:54[3] 15:27[5]	田沼怜(M1) 1:33:42[3] 15:48[5]	安本尚生(1) 1:58:50[3] 25:08[6]	1:58:50
7	東北大学C [オープンA]	向田裕翔(1) 31:44[14] 31:44[14]	臼井駿斗(M2) 41:59[11] 10:15[5]	井上大輝(3) 1:06:18[8] 24:19[8]	矢嶋由弦(2) 1:22:33[7] 16:15[6]	鳥山拓実(1) 1:38:53[6] 16:20[5]	深澤昇悟(1) 2:04:33[7] 25:40[6]	2:04:33
9	東北大学 中距離 [オープンA]	大塚光陽(1) 31:16[8] 31:16[8]	菅野耀広(4) 41:35[7] 10:19[7]	稲川亮太(2) 1:07:24[13] 25:49[19]	富田綾人(2) 1:24:24[13] 17:00[15]	松岡陽太(4) 1:41:47[10] 17:23[11]	金田大樹(4) 2:08:16[9] 26:19[10]	2:08:16
15	東北大学B [オープンA]	坂本順(2) 31:39[13] 31:39[13]	緑川翔太(2) 41:51[10] 10:12[4]	黒須大地(M1) 1:06:09[7] 24:18[7]	児玉健太(3) 1:22:47[9] 16:38[10]	渡辺大樹(1) 1:39:59[9] 17:12[10]	三浦大樹(M2) 2:10:30[15] 30:31[23]	2:10:30
		1区 (5.0km)	2区 (3.12km)	3区 (3.12km)	4区 (5.0km)	総合成績		
1	東北大学D [オープンB]	野地健太郎(1) 16:49[6] 16:49[6]	小林由輝(1) 27:32[3] 10:43[2]	桑原健輔(3) 38:13[2] 10:41[1]	高野陽向(1) 55:51[1] 17:18[6]	55:51		

東北大学(対抗の部) 代表 安本尚生

27大学駅伝にAチームで出場した新2年の安本尚生です。結果としてはタイムが1時間58分50秒で3位でした。優勝を狙っていたため、チームとしては悔しい結果となりました。レースの流れとしては、松浦さんが1区で大きなリードをつくって渡してくれたものの、後続で徐々に東工大と横国大に差を縮められ、4区で3位に落ちその後も挽回出来ずに差を広げられてゴールしました。

ここからは個人の反省です。自分は6区に出場し、区間6位という結果でした。優勝を狙っていたチームのアンカーとしてはかなり結果が悪かったです。その要因として、一番に挙げられるのは実力不足です。他大学の選手と比較するとトラックのPBが圧倒的に遅く、完全に実力が離れていました。タイムはほぼ実力通りであったため、明確な要素を挙げてこうすれば勝てた、というようなことを言うことができません。非常に悔しい結果です。

チームとして、強い代が抜け実力の低下が顕著に見られます。しかしながら、残ったメンバーで練習を積んで、色々な大会で結果を残せるようOBの方々のサポートに日々感謝しながら努力します。今後ご支援、応援などよろしくお願ひします。

東北大学 C(オープン A の部) 代表 矢嶋由弦

C チームは事前から意識していた B チームに僅かに先行される形でレースが展開しました。学部生屈指の量・質で冬期練習を消化していた 1 区向田が B チーム 1 区の PC 坂本(2)からわずか 5 秒遅れに留める快走を見せると、急遽出場が決まった 2 区臼井、前日の調整で不調を感じていたという(三味線?) 3 区井上も B チームと付かず離れずの位置でタスキをリレーします。そして 4 区矢嶋が(姑息な手段で) B チームをかわしますが、なんと運営のコール漏れで 5 区の鳥山が中継地点にいないというトラブル! しかし鳥山はその焦りを全く感じさせない走りを見せ、アンカー深澤も他チームで出場していた OB の先輩をうまく使いながら好走しました。結果的に B チームには勝利、中間走に課題意識を持ったメンバーもいたものの全員が自己評価で及第点の走りができました。特に 1 年生 3 人は年末年始を挟み学期末も控えてどうしても倦怠気味になっていた脚と心に刺激を入れ、来る春期休業期間とそれに続くトラックシーズンへの足がかりとする機会になったと思います。前年の県下駅伝が比較的風の弱い良コンディションであったため、強風の中でのレースが経験できた点もありがたかったなと感じました。

東北大学中距離(オープン A の部) 代表 富田綾人

27 大駅伝に中距離パートとしてオープン出場しました。過去に出たときのタイムに勝つことを目標に走り、1 分くらい更新することができたので良かったです。来年も機会があれば走りたいと思います。

東北大学 B(オープン A の部) 代表 渡辺大樹

チームの目標としてオープン C チームに勝つことと、個人の目標達成を掲げていましたが、C チームには負けてしまいました。レース展開としては、前半は C チームと競り合い、引き締まったレース展開となりました。しかし、3 区終了時点では少しだけリードしていたのですが、4 区で逆転を許し、5 区 6 区で大きく離されてしまうという展開になりました。ただ、今回の駅伝では足の不調などの不安要素を抱えている人が多く、また直前で出られなくなった人もおり補欠がいない状況であったので、結果的に大きなけが無く最後まで襷をつなぐことが出来たという点では良かったと思います。個人の目標については、概ね達成できた人や、万全でないながらも悪くない走りを出来た人もいましたが、私も含め満足いくレースが出来なかった人も多かったです。ただ、レースの少ない 1 月という時期に駅伝を走ったことは、春先のシーズンに向けてそれぞれの課題について考える良いきっかけになったと思います。

東北大学 D(オープン B の部) 代表 桑原健輔

オープン B の部は女子対校チームと同時スタートの 4 区間でつなぎます。朝 10 時 50 分スタートで晴れたり曇ったりの天候のもと、強風が吹いていました。1 区の野地(2)が区間 6 位の好走で競技場に帰ってくると、2 区の小林(2)も順位を 3 まで押し上げ、3 区の桑原(4)も一人抜かし、4 区の高野(2)も一人抜かしてゴールテープを切ってくれました。オープン B の部という括りではありますが、大目標に掲げていた優勝を達成することが出来たのは良かった点です。反省点としては、そもそも冬季に入ってから 27 大駅伝まで継続的に練習できていた人が少なく、体のどこかしらに怪我や違和感を抱えていた人がほとんどであったことです。一時的に試合でいい走りが出来ても、練習が継続的に積めなければ大きな飛躍は望めません。まずは継続的に練習を積めるようになることを意識し、今回の結果をもとに精進していきたいです。最後に、今後もコロナとの共生が必要となる競技生活において、出場に尽力してくださる顧問の先生方や大会を開催して下さる主催者の方々に感謝の気持ちを持って、出場できる一戦一戦を大切にしたいです。今後もよろしくお願ひします。

◎各種大会

第2回全日本大学院生対抗陸上競技選手権大会(3/26)…江戸川区陸上競技場

男子 5000m

優勝 松浦崇之(M2) 14:25:74

2022 日本学生陸上競技個人選手権大会(4/15-17)…レモンガススタジアム平塚

男子 400mH 予選

5組 8着 加地拓哉(M2) 54:58

反応よくスタートし、1台目、2台目をまずまずのハードリングで越えていく。バックストレートに入ってから外側の選手と並んでいたが、スピードを保てず5台目で大きく浮いてしまう。後半は他の選手に置いて行かれる苦しい走りとなり、粘り切ることができず8着でのフィニッシュとなった。

◎宮城県春季での活躍(4/29-4/30)



5000mW PB更新の辻本(4)



800m 組1位の力走 木村(2)



300m 部記録を出した斉藤(3)



三段跳 PB更新の大谷(3)



4×400mR 柄澤(M2)から山崎(4)へ



4×400mR 佐藤(4)から片桐(M2)へ

◎自己ベスト更新者(12/4~4/30)

- 男子 100m
斎藤晃汰(3) 11:16(-0.1)
第104回福島大学 TC 競技会(4/16)
佐藤千仁(4) 11:33(-1.4)
第104回福島大学 TC 競技会(4/16)
- 男子 300m
斉藤宥哉(3) 34:35 **[部記録]**
県春季(4/30)
佐藤千仁(4) 35:22 県春季(4/30)
片桐大智(M1) 36:03 県春季(4/30)
川野輪拓也(2) 36:85 県春季(4/30)
池谷 駿(2) 37:25 県春季(4/30)
- 男子 800m
富田綾人(3) 1:58:52 県春季(4/30)
- 男子 1500m
谷口尚大(M2) 4:02:69 県春季(4/30)
稲川亮太(3) 4:12:73 県春季(4/30)
- 男子 3000m
大塚光陽(1) 9:03:95 学連競技会(12/5)
- 男子 5000m
牧野雅紘(4) 15:29:13
第45回仙台市競技会(12/4)
立野佑太(M2) 14:40:02 **[歴代6位]**
第293回日体大記録会(12/5)
松浦崇之(M2) 14:05:86 **[部記録]**
第293回日体大記録会(12/5)
田沼 怜(M2) 15:13:38
第294回日体大記録会(4/24)
安本尚生(2) 15:21:77
第294回日体大記録会(4/24)
工藤大介(4) 15:26:94
第294回日体大記録会(4/24)
向田裕翔(2) 15:27:68
第294回日体大記録会(4/24)
児玉健太(4) 15:59:51 県春季(4/29)
- 男子 10000m
松浦崇之(M2) 29:39:16
第293回日体大記録会(12/4)
安本尚生(1) 31:44:60 学連競技会(12/5)
牧野雅紘(4) 31:47:64 学連競技会(12/5)
- 渡辺喬介(2) 32:32:16 学連競技会(12/5)
黒須大地(M1) 32:39:91 学連競技会(12/5)
坂本 順(2) 32:41:48 学連競技会(12/5)
井上大輝(3) 32:44:94 学連競技会(12/5)
工藤大介(3) 32:47:38 学連競技会(12/5)
田沼 怜(M1) 32:55:33 学連競技会(12/5)
向田裕翔(1) 33:34:13 学連競技会(12/5)
矢嶋由弦(2) 33:43:59 学連競技会(12/5)
鳥山拓実(1) 33:59:86 学連競技会(12/5)
緑川翔太(2) 34:03:13 学連競技会(12/5)
高野陽向(1) 34:28:27 学連競技会(12/5)
小林由輝(1) 35:00:17 学連競技会(12/5)
渡辺大樹(1) 35:36:08 学連競技会(12/5)
槇木直人(1) 35:56:58 学連競技会(12/5)
脇田陽平(M2) 32:03:24
平成国際大学長距離競技会(12/25)
- 男子 400mH
岡田幹太(3) 55:82 県春季(4/30)
- 男子 5000mW
辻本隆文(4) 22:58:92 県春季(4/30)
- 男子三段跳
大谷航平(3) 13m98(+0.6) 県春季(4/30)
- 男子やり投げ
川内蒼馬(2) 43m50 県春季(4/30)
- 女子 1000m
小川明音(4) 2:59:70
第45回仙台市競技会(12/4)
- 女子 1500m
小川明音(4) 4:56:46 学連競技会(12/5)
- 女子 3000m
阿部柚香(3) 10:53:95 学連競技会(12/5)
- 女子 5000m
阿部柚香(4) 19:17:38 県春季(4/29)
小山麻妃(3) 21:09:58 県春季(4/29)
- 女子走高跳
原田萌々子(2) 1m56 県春季(4/30)
- 女子ハンマー投
平谷めるも(1) 39m25 **[部記録]**
県春季(4/29)

*以上学年の記載に関しまして、すべて記録を出した際の学年で示しております。

○令和4年度三秀会総会 …書面決議

昨年度に続き今年度も、新型コロナウイルス感染症の蔓延が危惧される状況が続いているため、多数の会員が一堂に会する形式で総会を実施するのは難しい状況でした。

そこで、幹事会で検討した結果、昨年度と同様に株主総会の「書面決議」（または「みなし決議」）という方式になって開催しました。決議案および報告事項の文章を会員の皆様に配布し、同意できない場合のみ、電子メールまたは郵便で表明するものとし、表明をしなかった会員については全ての議案に同意したものとみなすことにしました。以下の議案について、全て承認されました。三秀 68 号に掲載予定です。

- ①会則改正：役員の業務分担や任期などを明確にするため、会則の一部見直しが行われました。
- ②令和3年度活動報告および収支決算
- ③役員改選：幹事長が S52 卒柴田清さんから S58 卒村橋光臣さんに交代になりました。柴田さんは幹事となりました。S50 卒鈴木善光さんと H30 卒森渉さんが幹事を退任し、新たな幹事として H30 卒千葉智史さんと H31 卒松田将大さんが選任されました。
- ④令和4年度活動計画および収支予算

○令和3年度三秀会卒業祝賀会（文責 H9 卒吉田） …オンライン

現役部員の卒業を祝し、令和3年度三秀会卒業祝賀会を3月5日（土）に開催しました。今春学部を卒業した陸上競技部員（医学部5年へ進学する部員も含む）を招待し、新型コロナウイルスの感染対策の観点から昨年同様にオンライン形式で開催しました。料理はフードデリバリーサービスを利用して各参加者の自宅へお届けし、オンライン会議ツールとしては自由に話し相手を選択できる Spatial Chat を利用しました。

参加者は卒業生が15名、OB・OGが9名でありました。例年よりやや少ない人数ではありましたが、卒業生のこれまでの活躍を労う場でもある本会を途切れることなく今年も無事開催することができました。はじめに、稲見会長（S49 卒）から祝辞を賜りました。そして、村橋新幹事長（S58 卒）の乾杯にて開宴となりました。暫く歓談した後、卒業生一人一人が、4年間の競技生活を振り返るとともに、今後の進路および豊富を語りました。また、参加した OB・OG の方々にご挨拶いただき、最後に、佐藤部長（S55 卒）が中締めをしました。昨年同様に、祝賀会後も OB・OG がバーチャル空間に居残り、情報交換の場としても一役買いました。（余談ですが、小生を含む一部の OB はインターネットカフェなる場所からの参加を試みましたが、店舗内のパソコンにはマイクが備わっておらず、持参しないと聴講のみの参加となるのが当日判明しました。奇跡的にカバンの中にマイクが1つ入っており、卒業生に向けお祝いの言葉を一言ずつ伝えることができましたが、非常にあたふたしました。皆様、インターネットカフェを利用される際にはご注意ください）

出席いただいた OB・OG（敬称略）：稲見文雄、柴田清、佐藤健二、大浦譲、佐藤源之、
村橋光臣、彦坂幸毅、久保正樹、吉田真人

寄付の申し出をいただいた OB・OG（敬称略）：及川拓郎、大原綾、三浦真

◎今後の予定

- ・5月28日 東北大学陸上競技部部員総会 …仙台/オンライン
- ・6月3~5日 第75回東北学生陸上競技対校選手権大会 …北上陸上競技場
- ・6月12日 第83回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦
兼第35回北海道大学対東北大学女子陸上競技定期戦 …札幌市円山競技場
- ・7月1~3日 第44回北日本学生陸上競技対校選手権 …札幌市厚別競技場

◎編集後記

いよいよトラックシーズンの時期です。昨年度よりも評定の利用規制が緩和され、冬季期間も着実に力をつけております。今年も三秀会員様に良い報告ができるよう日々精進してまいります。

本年も東北大学陸上競技部の応援をよろしくお願いいたします。

文責 OBOG 通信担当 安藤彩澄
編集補助 牧野雅紘、酒井健

東北大学陸上競技部三秀会

〒980-0815 仙台市青葉区花壇2-1

東北大学評定河原グラウンド内

hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp